

## 部 会 報 告

# ISO/TC 195/WG 4 (コンクリート機械) 等 ミルウォーキ国際会議報告

標準部会

## 1. 概 要

ISO/TC 195 関係の国際会議は、幹事国ポーランドの都合もあり、常時ワルシャワで開催されてきたが、今までやや静観的に関与していた米国に、より積極的に参加してもらうために、現在進行中の ISO/TC 195/WG 4 (コンクリート機械)、WG 5 (道路機械) 及び新たに日本がコンビーナとなって取組むことになった ISO/TC 195-TC 127 JWG 予備会議、以上3つのワーキンググループ国際会議を2002年10月22日～25日、米国ミルウォーキにある米国建設機械工業会 (Association of Equipment Manufac-

turers ; AEM) の会議室で開催した。

日本からは、経済産業省の施策「コンクリート機械に関する国際規格共同開発調査事業」活動の一環として、5名の代表がそれぞれ表-1に示す各委員会に出席した。

## 2. ISO/TC 195/WG 4 会議

(コンビーナ：川合雄二/日本)

出席者：米国6名、ドイツ1名、カナダ1名、ポーランド1名、日本5名 (瀬田幸敏、大村高慶、田島修、小林幸代、川合雄二)、計14名

所定の挨拶、書記の任命及びコンビーナの報告の後、日



写真-1 会議が催されたミルウォーキのAEM事務所玄関



写真-2 ISO/TC 195/WG 4 会議風景

表-1 ワーキンググループ国際会議

出席者	ISO/TC 195/WG 4	ISO/TC 195-TC 127 JWG		ISO/TC 195/WG 5
	(10/22)	Part 1(10/23)	Part 2(10/24)	(10/25)
大村高慶*1 (石川島建機)	○	○		
田島修*2 (日工)	○	○		
瀬田幸敏*3 (日本建設機械化協会)	○	○	○	
川合雄二*4 (日本建設機械化協会)	○	○	○	○
小林幸代*5 (日本規格協会)	○	○	○	

\*1：ISO/TC 195/WG 4 日本首席代表 (前述事業委員長) \*4：ISO/TC 195/WG 4 コンビーナ

\*2：ISO/TC 195/WG 4 日本代表 (前述事業委員)

\*5：日本規格協会コーディネータ (コンビーナ支援)

\*3：ISO/TC 195-TC 127 JWG コンビーナ

表一 規格案の審議スケジュール

規格案名称	決議事項
(1) コンクリートミキサ (第1部)用語と仕様項目 (DIS 18650-1.2)	3月末締切りのCD2次案投票の結果(N344)及び2002年7月15日までに受付けた追加意見を幹事国(ポーランド)がDISとして取纏め、中央事務局に提出すると共にその内容がISO/CSのLivelinkに登録された(TC 195/N 377, N 378, N 380, N 381)。 審議は提出された各国よりのコメントに対する幹事国の見解(オブザベーション)を示す総括票(N 378)に沿って進められ各種用語、仕様項目に関して意見調整がなされた。近々に中央事務局より正式のDISが回付されるが、出席国は、本会議での議決事項は、採択されたという前提で投票及び追加意見提出を行うこととなった。
(2) コンクリートミキサ (第2部)性能試験方法 (WD 18650-2.3)	日本が準備してWG4メンバに2002年10月1日に回付した規格案WD 18650-2.3(N 312 rev.)が検討規格案として受容られ、各国コメントを2002年12月10日までに幹事国宛提出することとなった。
(3) コンクリート棒形振動機 (CD 18651-2)	2002年5月10日締切りのCD投票の結果日本、ドイツの反対で規定の票に達せず(N 347)、更に日本がCD3次案を2002年12月31日までに作成することになったが、今回の会議でドイツ、日本のコメント及び幹事国の見解に関し米国、カナダも意見を提出して意見調整が図られた。日本は、以上の結果を含めた修正案(ポーランドの検討事項を除く)を作成し、幹事国宛に送付した。幹事国でCD3次案又はDISとして取纏める。
(4) コンクリート型枠振動機 (DIS 18652)	CD2次案に寄せられた各国コメントに対応したDIS案(N 370)と各国のコメントに対する幹事国の見解を示す票(N 372)を幹事国が作成し中央事務局に提出すると共にISO/CSのLivelinkに登録された。今回の会議では、時間の関係もあり特に審議せず、DISの正式配布を待ってコメントすることとなった。この後、中央事務局よりDISが回答期限2003年4月14日で正式配布された。
(5) コンクリートポンプ (第1部)用語と仕様項目 (WD 21573)	2002年10月4日締切のWDに対するコメント提出が充分でなく、米国の要請を受けて期限を2003年1月1日に延長し、意見を幹事国宛に送付し、幹事国は受取ったコメントを総括して2003年3月15日までにCD案を各国メンバに回付する。
(6) コンクリート吹付け機 (WD 21592-2)	2002年10月4日締切のWDに対するコメント提出が充分でなく、米国の要請を受けて期限を2003年1月1日に延長し、意見を幹事国宛に送付し、幹事国は受取ったコメントを総括して2003年3月15日までにCD案を各国メンバに回付する。
(7) コンクリートポンプ (第2部)性能試験方法 (NWIP)	2002年7月5日締切の投票に応じた国が規定数に満たなく、再度未投票国に投票を要請する(期限2003年1月1日)。更に積極的参加国を増やすべくコンビーナから働きかけを行うことが決議された。

本起案の7件の規格案(内、1件は新業務項目)に関する審議を行い各今後のスケジュールを明確にした(表一)。

### 3. ISO/TC 195-TC 127 JWG 予備会議

(コンビーナ:瀬田幸敏/日本)

#### (1) 第1部:コンクリート機械関係

(コンビーナ:瀬田幸敏/日本)

出席者:米国6名、ドイツ1名、カナダ1名、ポーランド1名、日本5名(瀬田幸敏、大村高慶、田島修、小林幸代、川合雄二)、計14名

冒頭、この会議の提案者(川合代表)より本会議の趣旨説明の後、瀬田幸敏氏がコンビーナとして承認され、同氏が議長となって以降議事を進行することになり、早速、ISO/TC 127の既存規格の5のコンクリート機械への適用の可否を検討する作業が開始された。

検討はあらかじめ日本が準備した「可能性リスト」(ISO/TC 127の既存規格に関し日本があらかじめ各5のコンクリート機械への適用の可否を検討し「適用可」、「部分的適用可」の印を付けた表)を使用し、米国の代表のD. Rolley博士の規格内容の説明を交えて日本が「適用可」、「部分的適用可」の印を付けたTC 127の規格一点、一点について審議を行った。この予備会議で行う内容は、本会議で審議するたたき台(案)を作成する程度でよく、詳細検討は本会議の課題として提示することになるので、12件の規格の審議で検討方法がほぼ理解できたので本作業を打ち切り、この残りは各出席者の宿題として検討してもらい、その結果を2002年12月31日までにコンビーナ宛提出す

ること、コンビーナは受領した結果を総括し2003年3月31日までにこの会議の出席者に配布し2003年5月のISO/TC 195国際会議でJWGへの提案として発表することが決議された。

この後「採用の決まった規格をいかにコンクリート機械用に規格化するか」に関し、日本より3のタイプの規格化事例を提示し、更なるアイディアの提供を要請した。

質疑応答の後、各出席者は更なるアイディアの提供を2002年12月31日までにコンビーナ宛提出することが決議された。

#### (2) 第2部:道路機械関係

(コンビーナ:瀬田幸敏/日本)

出席者:米国8名、ドイツ1名、カナダ1名、ポーランド1名、日本3名(瀬田幸敏、小林幸代、川合雄二)、計14名

瀬田幸敏氏が第1部に引続いてコンビーナとして承認され、同氏が議長となって議事を進行した。

第1部のコンクリート機械の場合と同様、ISO/TC 127の既存規格の8の道路機械への適用の可否を検討する作業が「可能性リスト」及びD. Rolley博士の規格内容の説明を交えて代表的3件の規格について行われ、この後は、各出席者の宿題として検討してもらい、その結果を2002年12月31日までにコンビーナ宛提出すること、コンビーナは受領した結果を総括し2003年3月31日までにこの会議の出席者に配布し2003年5月のISO/TC 195国際会議でJWGへの提案として発表することが決議された。

この後、第1部の場合と同様に「採用の決まった規格を

いかに道路機械用に規格化するか」に関し、日本より3のタイプの規格化事例を提示し、更なるアイデアの提供を要請した。CEN規格EN 500-1で既に25のISO/TC 127規格を引用しており、EN 500-1をそのままISO規格化するタイプも追加することになった。

質疑応答の後、各出席者は更なるアイデアの提供を2002年12月31日までにコンビーナ宛提出することが決議された。

#### 4. ISO/TC 195/WG 5 会議

(コンビーナ(代): D. Emerson 氏(米国))

出席者: 米国7名, ポーランド1名, 日本1名(川合雄二), 計9名

コンビーナのPiller氏(ドイツ)が病欠欠席となり, D. Emerson氏(米国)が急遽代行を務め, 所定の挨拶, 書記の任命の後, 議事を進行した。

10月17日に締切られたDIS 16039(スリップフォームペーパーの用語と仕様項目)の投票結果のTC 195幹事からの紹介の後, 米国から提出された大量の詳細コメント(34項目)に関する審議が2日間にわたって行われた。当該機械は, 日本でも輸入使用を開始している高生産性能を有するコンクリート舗装機械で, コンクリート棒形振動機も内蔵する関係でWG 4で現在審議中の用語との整合性等とに関して日本よりも意見を提出した。

#### 5. 今後の見通し

現在事業で取組んでいる7件の規格案の中, 5件(DIS直前2件, CD 2件, WD 2件)については, ほぼ予定通り検討が進められているが, 新業務項目提案(コンクリートポンプの性能試験)及びWD 21592-2(コンクリート吹付け機)に関しては, 投票数が少なく当該機械に関係のあるPメンバ国のWG 4へのより積極的参画と非メンバ国の新規参入を更に強く働きかけていく必要があり, 鋭意折衝中である。

- ・中国: 既にPメンバであるが, 技術的関与がない。専門家への説明と今後の積極的関与を要請する必要あり。

- ・カナダ: 積極参加する意志があることが確認されたのでPメンバになることを要請。
- ・韓国: Pメンバであるが, 今回は欠席。次回は参加が期待できる。事前対応が必要。
- ・スイス: コンクリート吹付け機の専門家の参画及びPメンバになることを要請する。
- ・米国: 今回の自国会議開催を機に更なる関与が期待できる。

前述のISO/TC 195-TC 127 JWG 予備会議及びその後の各国での検討結果を総括した提案書に基づきコンクリート機械等に関する補填規格の検討を2003年6月より開始し関係規格の充実を図ることとなった。

今後の課題としてCENへの対応としての安全規格の導入があるが, 技術的検討を進め日本が先行してISO案を準備しておくことも考えたい。

#### 6. 所 感

今回の米国ミルウォーキでのワーキングGP国際会議は, ISO/TC 195としては初めて幹事国ポーランド以外の地で行われたもので, 多数の米国専門家の参画が得られ, 開発中の規格に対する関心度を高めることができた。関心度, 協力度を得る方法として開催国になってもらうことは非常に有効であり, 今後もポーランド以外での開催を推奨していきたい。

また前述のISO/TC 195-TC 127 JWG 予備会議の決議を受けてTC 127米国代表D. Rolley博士の計らいで検討するために使用する関係規格の検索フォルダの出席者全員提供等が決まり, ANSIのご好意とお骨折りを得て11月末より検索が可能になった。米国の関係者の前向きな対応に深く感謝致したい。

今回の日本がコンビーナを務める2つのワーキングGPを支援するために, 財団法人日本規格協会よりコーディネータ派遣の恩恵に預かったが, プレゼンテーション及び審議資料の電子情報の照射を担当して頂いたため, コンビーナは, 審議自体に専念でき非常に良かった。財団法人日本規格協会よりのご支援及びご配慮に深く感謝致したい。

(文責: 川合雄二)